

各位

株式会社トランスジェニック

第 24 期定時株主総会の質疑応答の要旨について

2022 年 6 月 23 日(木)、第 24 期定時株主総会を開催し、4 名の株主様から 9 件のご質問を頂き、代表取締役社長 福永が回答致しましたので、その要旨をお知らせいたします。

記

- (質問要旨) 前期以前に「HPV 検査に力を入れる」とのことでしたが招集通知に記載がありませんでした。その後の検査状況、結果についてお聞かせください。
- (回答要旨) HPV 検査を実施しているのは 2022 年 1 月に事業譲渡した(株)ジェネティックラボです。コロナ禍において PCR 検査受託急増に対応していたこと、またグループ会社ではなくなったため、積極的な報告を行いませんでした。
- (質問要旨) 社外取締役 2 名の報酬が低すぎると思いますが、お考えをお聞かせください。
- (回答要旨) 清藤取締役については、当社と免疫生物研究所とは資本業務提携関係にあり、クロス人事で役員に就任しているため、双方の報酬は抑えております。斎藤取締役については当社の事業規模及び社外取締役としての活動状況を鑑みご同意の上、報酬を設定しております。
- (質問要旨) トランスジェニック本社住所と福永公認会計士事務所の住所が同一です。本社に同居している場合、負担の割合についてお聞かせください。
- (回答要旨) トランスジェニック社が熊本から福岡へ移転する際、私の社長就任により福永公認会計士事務所のスペースが空くこととなったため入居したものです。会計士事務所の登録変更の諸手続きを行っていないため同一住所になっておりますが、トランスジェニック社のみが存在している状況でございます。
- (質問要旨) 過去最高の業績で、財務内容もしっかり基盤を作られているが、それとは逆行するかのよう株価が低迷しています。この状況をどう考え、どう対応していくかお聞かせください。
- (回答要旨) 株主の皆さまには株価低迷で非常にご迷惑をおかけしていると強く認識しております。株価低迷の要因は今期の利益予想だと考えております。前期、前々期までは PCR 検査受託で大幅な売上と利益増がありました。営業利益 8 億円、18 億円と創業来最高益を 2 期連続で更新することができました。その一方で今期業績予想は PCR 検査受託を担っていたジェネティックラボの全株式を譲渡したため、営業利益 5.5 億円(約 7 割減)となっており、大幅な減益が株価低迷の要因と考えております。事業譲渡の狙いは、当社グループの利益構造を「PCR 検査需要の急増」に依存した構造から早期に脱却し、遺伝子改変事業を

有する CRO 事業とそれを支える投資事業でレベルアップした利益を計上できる利益体質を構築することを考えておりました。また、ジェネティックラボは検査サービス事業であることから、CRO 事業との相乗効果が限定的で、なおかつ先端機器の先行投資が多く、利益貢献が低いことが経営課題でした。PCR 検査事業は補助金の助成があったためこの点が表面化しなかったものです。今期の営業利益予想 5.5 億円は「PCR 検査需要の急増」に依存していた前期、前々期と比べると低くなりますが、それ以前の利益は 2019 年の 2.7 億円が最高益で、実際は確実に既存事業も成長しております。数字を並べると大幅な減益に見えますが、コアな事業は成長しているということを市場にご理解頂ければ低成長の株価は是正されてくると考えております。業績予想については、今般の円安、半導体不足、ウクライナ問題と非常に不透明な状況のため、保守的になっております。既存事業の実態としては 7~8 億円の事業基盤を確立できていると考えており、早期に通常的环境に戻る過程で利益確保し、前期の過去最高益を狙える水準に持っていきたいと考えております。

(質問要旨) ジェネティックラボの譲渡時期について、もう少し保有をしていたら業績に貢献できたのではと考えますが、お考えをお聞かせください。

(回答要旨) ジェネティックラボを譲渡しなかった場合、今期の営業利益は 5.5 億円以上だと推測しております。15 億円の売却益を計上しましたが、当社が売却して以降の PCR 検査事業の利益を見込んでの暖簾が大部分になるため、特別利益として前期に先取りした形となっています。

当社は PCR 検査需要の急増は一過性のものでいずれ収束すると考えておりました。実際、保険点数の見直しに伴い、当社グループでジェネティックラボが受託していた時期と比較して検査単価は大幅に下がっております。また、感染症分類の見直しが行われる可能性もあり、そのような場合、前期のような収益は見込めないと推測しておりました。大手検査センターが今期業績予想を、前年度に比べ 7~8 割減にしているのは、この動きを見ているからと考えられます。当社もジェネティックラボを譲渡したことにより、営業利益 7 割減を見込んでおりますが、そのまま保有していても営業利益の大幅な減益は避けられなかったと考えます。この段階で譲渡して、本業である非臨床、臨床事業に集中する方が中長期的な成長に寄与するものと判断し、意思決定いたしました。

(質問要旨) 2021 年 1 月下旬に SARS-CoV-2 スパイクタンパク質に対する抗体の販売を開始し、招集通知(P.6)に「堅調に推移している」と記載しているが、どのくらいの実績があったかお聞かせください。

(回答要旨) 現在は、研究途上段階にあり、熊本大学と取得した抗体の有用性評価を行っています。この有用性評価の対象外の抗体について試薬販売を行っています。あくまで「研究用試薬」のため、数十万円~数百万円で業績に影響を与えるほ

どの売上高ではない状況です。

(質問要旨) 業績に与える影響がある研究の状況をお聞かせください。

(回答要旨) 医化学創薬が開発している抗体は、新型コロナウイルスが変異していく中でも変わらない部分があり、その糖鎖構造で識別します。変異に反応するのではなく、変異があっても新型コロナウイルスを捕まえる点が特徴となっており、これが診断薬になるか治療薬になるか、性能について熊本大学と共同研究を行っております。感染症の実験のため、一般の研究施設ではなく BSL (biosafety level) 3 がある大学で共同研究を行っております。

現時点では報告すべき結果は出ておりませんが、診断薬に適する良い抗体であれば、既存の新型コロナウイルス検出の抗体キットの代替になる可能性があるかと期待しております。その場合は多くの売上が見込めますが、ライセンス契約、導出実績がないと言えないことなので、あくまで今は研究の状況を説明するにとどめたいと考えております。

(質問要旨) SARS-CoV-2 スパイクタンパク質に対する抗体は期待しない方がいいのかお聞かせください。

(回答要旨) 新型コロナウイルスに対する抗体は、既に様々な方法で取得された抗体が販売されており、当社は抗体売上そのものより、糖鎖という特殊な構造を利用すればユニークな抗体が取得可能という技術アピール的な要素の方が強いと考えております。今後の考えられる本技術を用いて開発するシーズとしては、ガンやアルツハイマー型認知症と対象疾患は多岐にわたりますが、特異性のある抗体を捕まえる技術であることから、新型コロナウイルスに対する抗体の有用性が検証されれば、その他のシーズに対する有用な抗体取得が期待できるものと考えております。

(質問要旨) 新型コロナウイルスに対する良い抗体が取れて、アピールできた場合は良いが抗体が取れなかった等うまくいかなかった場合、技術自体を否定される可能性があるのではないかと。また、取れた抗体が優れていても、今の新型コロナ感染拡大の現状に合っていない、使うタイミングでない場合はどうなのかお聞かせください。

(回答要旨) 抗体取得は時間とコストを費やせば、いつかは優れたものを取り出すことができますが、新型コロナウイルス感染症の治療薬は既に国内含め多数承認されており、今から承認申請を目指すことは現実的でないと考えますが、いずれインフルエンザ検査キットのように簡易診断薬キットとなれば、需要が見込めることから、診断薬を目指すのではないかと考えております。治療薬になるような抗体が取れなかったからといって糖鎖解析合成技術を否定することにはならないと考えております。

以上